

# 患者さんの安全を守るために

病院は住み慣れた環境と異なります。環境の変化、病気やけがによる認知機能・運動機能の低下により、思いがけない転倒・転落が起こることが少なくありません。高齢になるほど、十分な転倒予防対策を行っていても一定の確率で発生することがわかっています。特に、生活環境の急激な変化や、体のつらさ、薬剤の影響などにより「せん妄」が生じると、患者さんは混乱したり興奮することがあります。このような状況では、転倒・転落のリスクが高くなります。

## せん妄のおもな症状

- ・落ち着きがなくなる
- ・大声を出す
- ・無理にベッドから降りようとする
- ・興奮する
- ・家に帰ろうとする
- ・言われていることがわからなくなる
- ・点滴やチューブを抜く
- ・場所がわからなくなる



## せん妄状態になりやすい人

- ・70歳以上
- ・脳疾患で入院している
- ・全身麻酔で手術をする、または受けた
- ・認知症がある
- ・アルコールをたくさん飲む
- ・睡眠薬を飲んでいる
- ・疼痛がある
- ・過去にせん妄になったことがある
- ・抗がん剤を使用している

当院では、患者さんが安全に入院生活を送れるよう、頻回な巡回や見守り、転倒転落アセスメントスコアによる危険度の把握、認知症ケアチームによるラウンドなど様々な取り組みを行っています。患者さんが安心できるようご家族に協力を依頼することもあります。

しかし、どうしても危険な行動が防げない場合に限り、用具を用いてベッド上で安静にさせていただくことがあります。このことを「身体拘束」といいます。身体拘束が必要なときには、ご本人とご家族へ説明をさせていただきます。なお、身体拘束は危険な行動が落ち着きしだい、中止させていただきますのでご安心ください。

## 身体拘束用具の種類

身体拘束用具の種類	使用目的・使用方法
① 安全手袋 	手袋状のものを手に履くことで点滴やチューブを抜くのを防ぐ
② 抑制帯 	紐状のものを手や足に付けベッドやベッド柵に結ぶことでベッドからの転落や点滴やチューブを抜くのを防ぐ
③ 体幹ベルト	布状のベルトを腰に巻き、身体をベッドに安定させることでベッドからの転落を防ぐ
④ 体動センサー 	紐状のクリップが外れるとナースコールが鳴る仕組みで寝巻きに付けて使用し、ベッドからの転落を防ぐ。ナースコールがうまく使えない患者さんへの代替として使用する場合もある
⑤ 介護つなぎ服 	上下が一体になった寝巻きのことで、チューブを抜くのを防いだり、オムツを外す、服を脱いでしまうことを防ぐ



## ご家族の方へのお願い



- ① せん妄の予防のため、面会時間以外にも特例として面会をお願いする場合があります。また、電話でご家族とお話ししていただくこともあります。ご家族の顔を見たり、声を聞いたりすることで安心感が得られ、せん妄の予防につながります。
- ② 面会されている間は身体拘束をしないよう配慮させていただきます。お帰りになるときは、必ずスタッフステーションに声をかけてください。
- ③ ご本人に日付・時間・場所などを覚えていただくために置時計や卓上カレンダーの持参をお願いする場合があります。  
- ④ 普段お使いになられている馴染みの物品があれば是非持参してください。馴染みの物がそばにあることで、ご本人が安心して入院生活を送ることにつながります。せん妄の予防や回復にも役立ちます（例：くし、手鏡、腕時計、眼鏡、コップ、家族やペットの写真など）。

当院は、赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重するため、身体拘束等の最小化に取り組んでおります。

何卒、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。ご不明なことがあればスタッフへお尋ねください。

旭川赤十字病院

2016.作成

身体拘束等最小化チーム

2025.5 改訂